

■実施について

日時 令和7年6月25日（水）

場所 大谷中学校 校長室

参加者 9名

1. 委嘱状交付と自己紹介

新たに委嘱された大塚さんと石井さんが自己紹介

※PTA 代表 鈴木さんは欠席 ※委嘱状郵送対応 済

出席者： 熊澤・石井・吹越・大塚・吉田・岩崎 （校長・教頭・教務）

欠席者： 秋葉・鈴木・雅樂川

2. 令和7年度 学校経営について【報告】

(1) 学校経営方針：自立・夢を拓く人及び下位目標の承認

令和7年度は、重点目標を「語ろう思い、伝えよう願い」とし、子どもたちの願いを地域や仲間へ伝えていくことを目指す。

(2) 教職員の配置：定数37人が、常勤職員で充足せず、非常勤講師により、子どもたちの学びの保障を行う。

(3) 年間計画：合唱祭及び体育祭等、学校運営協議会委員の方に参加を依頼する行事を説明。

【学校の現状と課題】

①子どもたちの自己肯定感の低さが課題。

②教職員の配置が不足しており、教員の確保が難しい状況。

今年度は、非常勤職員で対応。

非常勤の増加は、校務等において、常勤の先生に負担感を与えるとともに、学校運営に支障をきたしているのが現状。

吉田： 「採用枠」が増えているのでは

校長： 採用枠を増やしているが、受検者の減少など、なり手不足が深刻な問題。教育実習生の多くが民間で内定をもらっている状況もあり、今後の教員確保は深刻な問題である。

3. 学校運営協議会と地域連携

・海老名市学校運営協議会規則を提示： 学校運営協議会の役割と責任について確認

・令和7年度学校運営協議会実施計画を提示：コミュニティ・スクールの基本方針の承認

・令和7年度社会に開かれた教育課程を提示：地域学校協働活動の共有

(1) 地域との連携を深めるためのカリキュラムデザインについて【熟議】

- 岩崎 : 地域と中学生が関わるのは難しい。
地域も保護者もそのような意識をもっていない。
学校から発信してもどこまで、地域が関わってくれるのか。
橋渡しはしたいと思っている。
- 校長 : 学校が「必然的に関わる状況」を作ることが重要。
それぞれの学年の学びの状況に応じて、発信していきたい。
学校と地域と保護者が同じ意識をもって子どもたちを育てることが重要。
今後、社会教育の役割も大きくなる。
- 岩崎 : 一部の生徒だけの活動になってしまうのでは。
学校にボランティア部を作るのはどうか？
- 大塚 : 地域は高齢化が進んでいるので、大学生のボランティアなども活用できないか。
大谷地区は高齢化が進んでいる。
若手の力が必要であるが、上手に世代をつないでいくことが難しい。
真鯨公園の清掃等も、若い方の参加が難しいのが現状。
中学生のボランティアなどを募ることはできないか。
- 校長 : チャンスがあれば、中学生も力をかせる。
このような形で地域貢献できること。
地域とのつながりをもつことができることはありがたい。
- 吉田 : 自治会との連携など、まずはやりやすいことから始めるのが良いでしょう。
- 石井 : 地域の清掃活動、小学校には案内をしている。
あまり、参加する子どもたちはいない。
ご褒美が、お菓子では参加しないのかな。
- 9月の末に国分寺台のお祭りが実施される予定。
そんな場面でも、子どもたちとつながりをもつことができればと思っている。
- 校長 : 子どもたちにとっても、よい経験の場。
地域の一員としての自覚や意識を高められること、
何よりも、顔が見えるつながりをもてることがうれしい。
2年生は稲作体験を通して、地域に貢献したいというモチベーションが高まっている。
地域学校協働活動への参加も積極的です。

(2) 【情報提供】大谷中学校区学校運営協議会の実施について

日時 令和7年7月17日（木） 15：00～

場所 大谷中学校 図書室

講師 神奈川県教育委員会 鈴木社会教育主事兼指導主事

海老名市教育委員会 五十嵐指導主事

4. 各学年の活動報告

(1) 1年生（野村先生）：

野外教育活動の動画を放映：チームビルディング・野外炊事の様子を説明

稲作活動について：今後の展開について現在子どもたちと構築中

学年通信のバックナンバー配付

【学年の様子】

- ・担任が若く経験が浅いことが課題。
- ・稲作活動を通して教育活動の展開をひろげていく。
→地域の皆様の力をかりることもあるかもしれないので、お願いしたい。
- ・各教科の学びを可視化することで透明性ある指導支援をする。

吉田 ：学年だより、とても素晴らしい！
 学校の様子が手に取るようにわかる。

石井 ：このような情報発信は、保護者にとっても、ありがたい。

(2) 3年生（杉山先生）：

- ・体育祭の取組：応援団長候補者9名から2名を選抜する。
- ・修学旅行：京都・奈良、大阪万博への参加
→大阪万博ではスマホの使用を認める。
→生徒が自分たちで安全に配慮したマナーとルールを決めた。

【学年の様子】

- ・3年生になって、今はとても落ち着いた雰囲気で学校生活を送っている。
- ・各学級、クラスの旗を作り、団結力を図っていきたい。
- ・総合的な学習では、自分の将来について考え、その過程として高校受験を意識できるようにしている。進路については8月25日に高等学校の先生を20人程度招いて説明会を実施する予定
- ・総合的な学習を進める中で、大学生（就職が決まっている）や就職した人の話を聞きたいという子どもたちの声にこたえて、計画を進めていく予定

校長 ：これまでの総合的な学習が行事に係る学習を進めていた。

今回は、学年でテーマをもたせて取り組んでいる。

3年生の、子どもたちは、自分の将来を見据える中で、生き方についての学びを深めている。

大塚：素晴らしい取り組み。

子どもたちが自分の経験を積み上げながら、これからの将来を考える。

このような取組は、自己決定や自己判断する力をつけていくことにつながる。

(3) 2年生（金子先生）：

「協同」を重視し、学年づくりに取り組んでいる。

子どもたちが、よりよい人間関係を構築するために、「あいさつ」に力を入れる。

今後の予定 ①10.8 中央農業高校体験学習 ②1.21/1.22 職場体験学習

③3.15 ワークショップランド（仮称）の開催

【学年の様子】

・「ピカピカ作戦（校内の清掃ボランティア）」には110名が参加し、子どもたちの主体的な活動がみられ、高い評価を受けた。

・このような取組をとおして、地域の人とともに活動できることを考えていきたい。

・また、地域貢献を目標に、生徒発信で、地域の方と協働的に活動できることを検討する。

校長：真鯨公園等、地域の方と共に活動できると嬉しい。

高齢化が進んでいる中、中学生が力となり、地域の一員であることを意識づけていきたい。

岩崎：このような、校内清掃や今後の地域とともにある活動を発信したのは誰ですか。

金子：学年代表（黒岩）が立案し、学年委員を中心に計画を立てていた。

教頭：大まかな計画・立案は大人発信だが、細かな計画や方法等の詳細は、子どもたちが話し合っているように取り組んでいる。

校長：昨年度、総合的な学習（稲作活動）において自分たちで事業を起こし実践したことが良い経験になっている。

大塚：保護者の意識も変わり、協力したいと思っている。実際に、今年は稲作ボランティアが増えている。

校長：2年生の校外学習を神奈川全域に広げる。ここでも多くの保護者がボランティアとして協力してくれた。子どもたちの主体的な活動ができるのは、これまでの経験の積み上げと信頼関係に基づく。

5. 情報提供

(1) インクルーシブ教育の推進について【報告】

・海老名市が取り組む「フルインクルーシブ教育」にかかる情報提供

→推進ビジョンと5年間の取組計画について説明

→校内の取組：不登校支援の対応について情報提供

→対話の場について

→今後の学校の取組として、すべての子どもたちの学びをどのように保障していくか。

岩崎： 目的は理解できるが、学校は、まだまだ支援が必要な生徒の受け入れ態勢が整っていない現状があるような気がする。
親御さんの気持ちなども聞いてみたい。

吉田： 段階的に進めるべきであり、ベースとしての形がないものに取り組もうとしている。一気に舵を切るとなると、現場の先生方の負担が大きいのでは。

校長： 支援教育を担当している教員が、一番困惑している。一人一人の子どもたちに合わせた適切な指導や支援を、インクルーシブ教育の中でどのように機能させるべきかを、みんなで考えていく必要がある。
先生方と、みんなで合意形成を図りながら意識に触れていきたい。

石井： 理想はわかるが、迷いながら、悩みながら進んでいくのだろうと思っている。
支援に係る教員の配置が不十分であり、子どもたちの居場所の確保、安心・安全を考えると、急にこの状況を変えて対応することは難しい。

校長： 「平等」ではなく「公平」の視点が重要。一人の先生ではなく、学校全体で生徒一人ひとりに目を向け、関わっていく体制づくりが大切かなと考えている。
8月には、教育長との対話の場も準備されているので、よろしければご参加を。

校長： 子どもたちの考えも聞いてみたいと思っている。11月に教育長が子どもたちに話をするので、それを受けて、子どもたちの意見も参考にしていきたい。

(2) PTAの機構改革と今年度の取組について

・常置委員会の廃止、多くの保護者が参加できるボランティア制導入

・本部のみ設置（本部：運営部・企画調整部）

・PTAの任意加入制度による、非加入世帯の増加への対応

校長： 昨今の社会情勢を踏まえ、働く保護者も増えているので、保護者の方が、学校の施設整備や子どもたちの活動に参加しやすい仕組み作りが必要。

教頭： これからのPTA活動には、加入・非加入の意思確認を徹底していく。

- 校長： 非加入世帯の子どもたちにも、不利益がないように、PTA の活動にかかわってもらう形をとっていく。
- 大塚： 親子で一緒に参加できる活動を提案する。
- 岩崎： 魅力ある活動にすることで、任意加入でも参加者が増えるのではないか。
- 岩崎： 青健連の立場で言わせてもらおうと、大谷小の登校班の廃止は急すぎる。
立哨時間も不明確だし、大谷小と杉久保小では、加入率が違う。
中学校での P T A の加入に大きな影響が出るのではと心配している。
- 石井： 卒業記念品等は、PTA 会費からではなく、その都度徴収することも検討が必要。
- 小林： P T A に非加入の子どもたちに、卒業記念品を渡さないという考え方はないけれども、いろいろな思いを抱く保護者もいるので、今年度は、物品ではなく P T A の事業として展開しようと考えている。

(3) 熱中症ガイドラインについて

- 熱中症ガイドラインを遵守して教育活動を進めていく
- 大谷中の観測基準は海老名小学校設置の P O T E K A に基づく
- 暑さ指数 3 1℃では、屋外での運動を伴う教育活動を自粛

- 校長： 暑さ対策を講じながら、教育活動を進めていく。
- 岩崎： 湿度が高いと POTEKA は高くなる。
しばらくは、あそびっ子はできないかなと思う。
- 教頭： 体育館改修工事に伴って、体育館をお借りすることもあり、
あそびっ子に来る子どもたちには、申し訳ない。

6. 報告とその他

- (1) 保護者対応、生徒の情報共有については（時間がなく割愛）
- (2) 今後の主な予定
- | | |
|-------------------|-------|
| ・ 中学校区学校運営協議会の研修会 | 日程の連絡 |
| ・ 小中連携授業参観 | 日程の連絡 |
| ・ ひびきあう教育実践研究発表大会 | 日程の連絡 |

7. 閉会